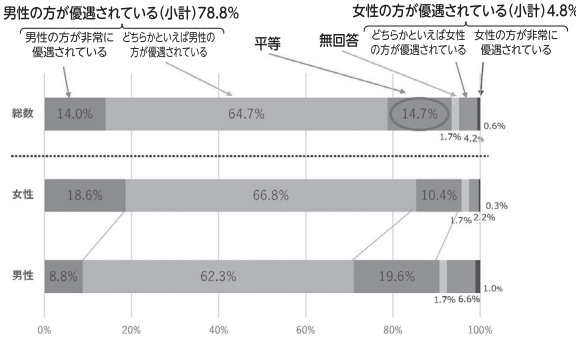


男女共同参画社会の実現に向けて

「男女共同参画社会」とは、男性と女性がその人権を尊重しつつ、喜びも責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することのできる社会のことです。

しかし、近年のジェンダーギャップ指数(男女格差指数)ランキングや、次の世論調査(令和4年・内閣府)からも分かるように、日本では、家庭や職場、地域社会など、あらゆる場面で男女間の不平等を感じる事がまだまだ多いと言わざるを得ません。

社会全体における男女の地位の平等感



同じ内閣府の調査によると、男女格差が生まれた原因として、「男女の役割分担についての社会通念・慣習」しきたりなどが根強いから、「仕事優先、企業中心の考え方が強いから」と考えている人が多いという結果が出ています。

2018年8月、入試得点を操作して女性の合格率を低く抑えてきた医科大学の差別事件が発覚しました。新聞報道によれば、「今の医師の長時間労働を前提とすれば、子育てなどと両立させることが難しく、女性は結婚や出産をきっかけにやめる可能性が高い。だから、家事・育児は女性に任せて男性に医師になつてもらうことが必要だ。そういう固定的で一方的な論理から女性差別が正当化されていた」というのです。このことは、医学界だけの話ではなく、日本の産業界全体の問題でもあります。すなわち経済面から見ると、長時間労働と不安定な非正規労働に依存してきた日本の雇用システムが、女性の活躍を阻み、女性差別を存続させてきた一因だといわれているのです。

少子高齢化の進む日本では、働き手となる現役世代が減り、経済が不安定化していることも

に、年金や医療保険制度の維持も難しくなっています。これまでも男性中心であった社会を男性と女性の両方で支える仕組みに変えることが急務といえるでしょう。男女に関係なく、子育てや介護など、どんな状況でも働き続けられる環境や、それが認められる社会を実現することが、労働人口の減少を食い止め、将来的な経済発展につながる道なではないでしょうか。さらに言えば、日本が今後も国際社会の中で高い競争力を保ち、立ち位置を向上させるためには、女性視点での考えやアイデアが欠かせないものになっています。

現在、官民あげて男女共同参画社会の実現をめざした取組が進められています。私たちも、「男だから」「女だから」という古い衣を脱ぎ去り、誰もが自分らしく生きられる社会をつくるために、行動していくようではありませんか。

市教育委員会生涯学習課
人権教育推進室(新教育庁舎2階)
☎ 32・3814
FAX 33・1230
✉ jinkenkyouiku@city.komatsushima.i-tokushima.jp

市民文芸 花みずき歌壇 (414) 山崎泰子・選

だんごむしおらんかなあと石のける子らに起こされもぞごころん
日開野町 森下 鎮代

年金を受け取る前の買物物はカード払いでクールに決める
前原町 福元 英夫

手荷物を持ちましょうかと少年の声にうるうる駅の階段
立江町 湯浅かや子

日の峰は朝霧のなか街もまた朝霧の中ランドセル行く
松島町 萬野 行子

楓葉の若き緑を見上ぐれば胸に吸い込む息さえみどり
松島町 六田 靖子

伸び上がるいのちの若葉ひしひしと一途の春を一期の春を
小松島町 萬宮千鶴子

ふるさとの湖面に刺さる月光を今見る我の横にも我が
横須町 天王谷 一

ゆくりなく深夜ラジオゆ聞こえくるワンオク歌うOne Way Ticket
中田町 湯浅 百世

カーテンを開く窓へと朝日さす桜の花の一輪挿しにも
小松島町 綴木 茂治

花疲れとは今日の疲れを言うならむ花の夢見てぐつすり眠る
中田町 松並 敦子